## 令和7年度行政評価 施策評価票

主管部局・課教育委員会・教育総務課

政策目標1 未来につなぐひとづくり/政策1 次代を創る子どもたちの育成 政策分野4 地域による子ども育成

## 目指す姿

地域全体で子どもたちを育み、子どもたちが社会的、精神的に成長するまち

++- <del></del>								
施策								
+	名称   関連するSDGs17のゴール							
施策番号	施策の内容							
施策1	子どもと子育て家庭を支える地域 1 ****							
ル採	地域社会の中で安心して子育てができ、一人ひとりの子どもたちが健やかに成長することができるよう、地域で子育てを支える意識づくりや交流機会の創出等を推進します。							
施策2	青少年の健全育成     4 MANUTER     3 FX TO ALL ALE TO ALL ALL ALL ALL ALL ALL ALL ALL ALL AL							
ル宋 2	會津藩校日新館の教えである「ならぬことはならぬ」に代表される会津の精神を踏まえて策定した「青少年の心を育てる市民行動プラン"あいづっこ宣言"」を青少年健全育成の柱とし、地域ぐるみで青少年を育みます。							

## 1 政策分野の進捗状況

重	要業績評価指標の達成状況										
		指標			単位	説明又は計算式					
	ファミリー	・・サポート	・センター	支援件数	件	ファミリー・サポート・センター支援件数					
	年度	R5	R6	R7	R8	検証					
1	目標	3,000	3,000	3,000	4,500	令和6年度の実績において最終目標を上回って達成できている。 会後もひとり 親家庭に加え					
	実績	4, 267	4, 503	-	_	て達成できている。今後もひとり親家庭に加え 、障がい児・多胎児のいる世帯に利用料の半額 を助成することにより、さらなる支援件数の増					
	達成率	142.2%	150.1%	-	_	を助成りることにより、さらなる文援件数の増 加を図っていく。					
	放課後子と	ぎも教室利用	児童の割合		%	登録児童数/対象となる小学校の児童総数					
2	年度	R5	R6	R7	R8	検証					
	目標	8.7	9.0	9.5	10.0						
	実績	10.4	10.2	-	_	き参加しやすいスケジュール調整や魅力的なプ    ログラムを提供することで、今後も達成できる					
	達成率	119.5%	113.3%	_	_	見込み。					
	子ども (18点	歳)の会津図	書館館外貸出	登録者の割合	%	会津図書館における子どもの登録者数/市内の子ども数					
	年度	R5	R6	R7	R8	検証					
3	目標	45.0	45.0	45.0	45.0	最終日煙を上回って達成できている   会後よ					
	実績	53.7	54.7	-	_	最終目標を上回って達成できている。今後も 市子ども読書活動推進計画に基づき事業を進め ることで目標達成できる見込み。					
	達成率	119.3%	121.6%	-	_						
	少年非行の	割合(1,00	0人当たり)			会津若松市刑法犯少年検挙・補導数 ÷少年人口(6才~19才)×1,000					
	年度	R5	R6	R7	R8	検証					
4	目標	2. 1	2.0	1.9	1.8	本市の少年補導の状況は、令和4年以降増加 傾向にあり、令和6年は、万引きや自転車盗が					
	実績	2. 1	3.9	-	_	増加し、目標達成に至らなかった。					
	達成率	100%	51%	-	_						

### 子どもと子育て家庭を支える地域づくり 施策1

## 【1】地域での子育て支援

(1) 地域での子育で支援 ・ファミリー・サポート・センター事業において、サポート提供会員を増加させる取組等により、市民全体で子どもと子育て家庭を支える意識づくりに努めてきた。 ・市民ニーズの高まりや共働き世帯の要望を踏まえ、ひとり親家庭等に対する利用料の半額助 成の実施のほか、土日に会員登録のための説明会やサポートを依頼したい会員と実際にサポートをする会員のマッチングを行うなどの取組を行うことで、子育てに関する不安や負担の軽減 を図り、子育てしやすい環境づくりを整備してきた。

【2】地域子育て支援センターの充実 ・平成27年度からの新制度により地域子ども・子育て支援事業へ位置づけられ、保育所及び幼 保連携型認定こども園等で実施した(令和7年度4月現在30か所)。

【3】地域学校協働本部事業(地域学校協働活動・放課後子ども教室)の推進・地域学校協働活動については、学校の教育活動を地域住民が支援する活動を平成23年度から開始し、令和3年度からは、全ての小・中・義務教育学校に地域学校協働活動推進員(コーディネーター)を配置した。また、多くの地域住民にボランティアとして参画いただいており、本活動を通して、子どもたちの教育環境の向上と、地域住民の社会参加を促進した。・令和7年度現在、8地区において地域学校協働本部を設置したことで、より一層、地域と学校の連携・協働体制が強化された。・ か理後子ども教室は、平成19年度上116公民館で取組が関係され、全和2年度からは今公民・放理後子ども教室は、平成19年度上116公民館で取組が関係され、全和2年度からは今公民

## 主な取組状 況と成果

・放課後子ども教室は、平成19年度より6公民館で取組が開始され、令和3年度からは全公民

が保険すども数主は、下成13年度よりも五氏語と収配が開始され、下れる年度がらは主五氏館で取組が始まり、市内13か所で実施されている。また、令和6年度からは13か所のうち11か所で、こどもクラブと放課後子ども教室が同一の小学校等内で実施される「校内交流型」として取り組んでおり、こどもクラブの子どもたちが、放課後子ども教室のプログラムに参加することで、地域住民との交流の促進や子どもたちの健全育成に寄与している。

【4】子ども読書活動の推進 ・平成22年度の「第一次市子ども読書活動推進計画」の策定から、現在の「第三次計画」まで の間、家庭・学校・地域と連携して、年齢に応じた子どもたちの読書環境の整備や読書活動の 推進を図ることができた。

・小学生対象の「会津図書館を使った調べる学習コンクール」では、子どもたち自らが主体的に学ぶ意欲の醸成や情報活用能力の向上を図った。また、中高生対象の「会津ビブリオバトル(知ら書評合戦)」では、読書活動の充実と論理的思考力・表現力・プレゼンテーション能力 の向上を図った。

・健康福祉部との連携や、読み聞かせボランティアとの協働により、平成28年度からブックスタート事業を行うとともに、赤ちゃんおはなし会などの事業開催を通して、保護者の方々に絵本の持つ力や読み聞かせの大切さを伝えることができた。 ・児童書やティーンズ向け図書資料の充実を図るとともに、読み聞かせなどのイベント開催や、こども園や小学校の見学受入れなどの実施により、来館を促した。

## 【1】地域で子どもが健やかに成長できる支援体制の強化

・市民ニーズの多いファミリー・サポート・センター事業については、依頼したい会員は増加傾向にあるが、サポートを提供できる会員は限られていることから、市政だよりやテレビ広報、市公式SNSなどを指揮した幅広い周知を行うとともに、「おねがい会員」の経済的負担と サポート会員」の確保の両面を鑑みながら、利用料金のあり方について検討していく。

## 【2】地域子育て支援センターの充実

・今後も、子育て世帯の利用を促進するため、子育て支援センターの周知に努めていく。

【3】地域学校協働本部事業(地域学校協働活動・放課後子ども教室)の推進 ・地域学校協働本部と学校運営協議会(コミュニティスクール)が一体となって機能すること が求められていることから、地域学校協働活動推進員(コーディネーター)等が、学校運営協 議会の委員となり、幅広い地域住民等とともに参画することで、情報共有と連携体制の向上を 議会の安員となり、幅広い地域住民等とともに参画することで、情報共有と連携体制の向上を図り、地域と学校が一体となって子どもたちの健やかな成長を支える活動を推進していく。 ・コーディネーターの後継者やボランティア不足が心配されることから、より多くの方々に主体的に参画いただけるよう、地域学校協働本部事業の活動の様子を周知・広報し、事業への理解・協力と参加促進に努めていく。 ・放課後子ども教室については、今後人口減少に伴い児童数の減少が見込まれるため、参加しやすいスケジュールの調整や魅力的なプログラムを提供し、参加者の確保に努めていく。

【4】子とも読書活動の推進 ・地域や学校における読書活動への参画者を増やすために、ボランティア育成や読み聞かせ講 座による学習する機会と情報提供を行うとともに、事業活動の場の確保と継続に努めていく。 ・誰もが読書に親しめるよう、障がいや日本語以外を母国語とするなど支援を必要とする子ど もたちに対して、図書サービスの充実を図っていく。 ・「第四次市子ども読書活動推進計画」を策定し、地域全体で子どもの読書活動の推進及び図 書館事業の充実を図っていく。

## 今後の方針 ・改善点

# 施策2 青少年の健全育成 【1】青少年の心を育てる市民行動プラン事業 "あいづっこ宣言"という共通のテーマ設定により、家庭、学校、地域、企業及び青少年育成に関する団体が、連携して青少年問題に取り組みやすくなったことから、地区の実情に応じた様々な活動をそれぞれ主体的に実施している。また、大人への普及促進を重点的に図るため、民間企業への普及啓発事業に取組むとともに(平成24年度~)、若い世代に向けて作成したリーフレットの有効活用など、未来を担う青少年の育成に効果的な事業を社会全体で展開して いる。 【2】少年の非行防止 主な取組状 少年センター補導員による街頭補導活動や各地区補導等のほか、郊外型大型店等の巡回を行う公用車による「あいづっこ青色パトロール」を実施してきた。市の情報配信メール「あいべあ」を活用した不審者情報等の速やかな情報配信や、補導員向けの研修会を実施し補導員の意 況と成果 識や資質の向上にも取り組んだ。 【3】青少年健全育成事業 「青少年育成市民会議」や「子ども会育成会」等の青少年関係団体の活性化を図りながら青 少年の健全育成を推進している。 ) 自主性や自立性を持った心豊かな子どもを育成するため、市子ども会育成会連絡協議会との 連携により、中高生のジュニアリーダーを育成(平成26年度~)している。 【1】青少年の心を育てる市民行動プラン事業 "あいづっこ宣言"の更なる周知・啓発を図るために、青少年育成市民会議を核として地域の実情に即した事業を展開していくとともに、学校を通じた児童・生徒の宣言の理解促進と実践化を図っていく。また、民間企業との連携を図り、子どもだけでなく大人も一体となっ たより一層の普及啓発を進めていく。 少年の非行防止 【2】少年の非行防止 生活安全白書(会津若松警察署)による本市の少年補導の状況については、検挙・補導人数 は令和4年以降増加傾向にあり、令和6年は前年同期と比べて23人増の52人となった。検挙さ れた罪種としては万引きが最も多く、犯罪の低年齢化も問題となっている。また、令和6年に 補導された不良行為として、最も多かったのは喫煙であった。これら非行を防止するため、関 係機関との連携を基盤として、地域に密着した補導活動を行っていく。また、犯罪発生の多い 地域や下校時間帯に合わせた『あいづっこ青色パトロール』での見せる補導や「あいべあ」で の補導員への情報提供、研修会の開催により補等活動の充実を図り、少年非行と犯罪被害を未 無になっかり知名を継続していく 課題認識と 今後の方針 然に防ぐ抑止力としての取り組みを継続していく。 ・改善点 【3】青少年健全育成事業 13人 育少年候主育成事業 青少年を取り巻く環境が一層複雑・多様化する中にあって、青少年の健全育成には家庭、学校、地域等の連携した取組が不可欠であることから、今後も青少年関係団体などと連携し、地域全体で青少年の健全育成を推進する。子ども会育成会連絡協議会との連携を図り、より魅力ある事業の実施と効果的な周知方法を検討するなど、子ども会加入者の確保と育成会等の組織の活性化を図り、自主的な活動の支援を継続していく。

建設から50年以上が経過し老朽化が進んでおり、施設の状況に応じた適切な改修等が求められている。今後も安全性等の観点で優先順位をつけながら必要な修繕等を加え、現在の施設を

【4】 少年の家

維持管理していく。

## 関連する政策分野と事務事業

政策分野	事務事業名	担当部・課名					
1-2	ホームスタート事業	健康福祉部・こども家庭課					
1-3	児童健全育成事業	健康福祉部・こども保育課					
1-4	子ども未来基金事業	健康福祉部・こども家庭課					
2-1	コミュニティ・スクール推進事業	教育委員会・学校教育課					
25-1	防犯推進事業	市民部・危機管理課					

## 4 第7次総合計画の期中総括

○土な风米 【施策1 子どもと子育て家庭を支える地域づくり】 ・ファミリー・サポート・センター事業において、サポート提供会員を増加させる取組等により、市民全体で子どもと子育て家庭を支える意識づくりに努めてきた。 ・市民ニーズの高まりや共働き世帯の要望を踏まえ、ひとり親家庭等に対する利用料の半額助成の実施のほか、土日に会員登録のための説明会やサポートを依頼したい会員と実際にサポートをする会員のマッチングを行うなどの取組を行うことで、子育てに関する不安や負担の軽減を図り、子育てしやすい環境づくりを整備してきた。

・地域学校協働活動では、主体的に学校を支援しようとボランティア活動に参加する方や、その活動が「生きがい」につながっている方が増えており、学校や家庭・地域を結ぶ学びの好循環が生まれている。また、令和3年度から全ての小・中・義務教育学校に地域学校協働活動推進員(コーディネーター)を配置し、全地域において実施するとともに、11地区中8地区に協働本部を設置し、地域における学校とのつながりが広 がっている。

かっている。 ・放課後子ども教室においては、全ての小学校を対象に地域の方々と触れ合う機会を提供できた。また、令和6年度からは13か所のうち11か所を校内交流型として実施し、より多くの子どもたちに学習や体験、地域住民との交流活動等の機会を提供することで、地域における、子どもたちの健全育成が図られた。 ・子ども読書活動の推進では、健康福祉部と連携で行うブックスタート事業、おはなし会や読書イベントの開催や見学の受入れ等を通して、本に親しむ機会の充実を図ったことで、「子ども(18歳まで)の会津図書館館外貸出登録者の割合」が増加するなど、本に触れる子どもの割合が増えた。

青少年の健全育成】

【施東2 育少年の健全育成】 ・「青少年の心を育てる市民行動プラン」において、家庭、学校、地域、企業及び青少年育成に関する団体 と連携しながら「あいづっこ宣言」の普及に取り組むとともに、青少年育成市民会議では朝のあいさつ運動 をはじめ、各地区の実情に応じた様々な活動を実施してきた。 ・少年の非行防止に向けては、関係機関との連携を図りながら地域に密着した補導活動を実施してきた。ま た、「あいづっこ青色パトロール」での見せる補導や「あいべあ」による補導員への情報提供、研修会の開 催など補導活動の充実に取り組んだ。

## ○課題

○課題 【施策1 子どもと子育て家庭を支える地域づくり】 ・市民ニーズの多いファミリー・サポート・センター事業については、依頼したい会員は増加傾向にあるが、サポートを提供できる会員は限られていることから、市政だよりやテレビ広報、市公式SNSなどを活用した幅広い周知を行うとともに、「おねがい会員」の経済的負担と「サポート会員」の確保の両面を鑑みながら、利用料金のあり方について検討していく。 ・地域学校協働本部事業をより効果的に推進するためには、持続可能な活動体制の構築が必要であり、本事業の主体となる、コーディネーターやボランティアの人材発掘・確保と後継者育成などが課題である。 ・地域において、子どもを育む取組をさらに推進するため、地域学校協働本部と学校運営協議会は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、一体的に推進する必要がある。 ・子ども読書活動推進計画の推進のために家庭、学校、地域との連携強化や参画者を増やす必要がある。

青少年の健全育成】

・「あいづっこ宣言」の更なる周知・啓発を図るために、青少年育成市民会議を核として地域の実情に即した事業を展開していくとともに、民間企業との連携を図り、子どもだけでなく大人も一体となったより一層の普及啓発を進めていく必要がある。 ・少年非行の要因は単独で作用するだけでなく、複雑に絡み合って犯罪の発生にもつながっている。このことから、現在の補導活動に加え、防犯の視点からも取組むなど、地域社会における防犯体制の強化に繋がる

よう関係機関と連携を図っていく。

## 5 最終評価

政策分野4「地域による子ども育成」の推進にあたっては、地域全体で子どもと子育て家庭を支える意識づくりに努め、地域学校協働本部と学校運営協議会それぞれが持つ役割を十分に機能させながら一体的に取 り組んでいく。また、青少年の健全育成については、現在の補導活動に加え、地域社会における防犯体制の強化につながるよう関係機関と連携を図っていく。

## 6 事務事業一覧

	ナリルナオ	- 元					
番号	ロジック モデル	主要事業	人口減 少対策 ※	SDGs ターゲ ット	事務事業名	次年度 方針	担当部・課
施策	1 子と	ごもとう	子育て家	ア庭を支	える地域づくり		
1		0	基本目標4	3.8	ファミリー・サポート・センター事業	継続	健康福祉部・こども家庭課
2		0	基本目標4	4.2	地域子育て支援拠点事業	継続	健康福祉部・こども保育課
3			基本目標4	4.2	中央保育所子育て支援センター事業	継続	健康福祉部・こども保育課
4			基本目標4	4.2	広田保育所子育て支援センター事業	終了	健康福祉部・こども保育課
5			基本目標4	4.1	地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・生涯学習総合センター
6			基本目標4	4.1	中央公民館神指分館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・生涯学習総合センター
7			基本目標4	4.1	北公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・北公民館
8			基本目標4	4.1	南公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・南公民館
9			基本目標4	4.1	大戸公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・大戸公民館
10			基本目標4	4.1	一箕公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・一箕公民館
11			基本目標4	4.1	東公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・東公民館
12			基本目標4	4.1	湊公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・湊公民館
13			基本目標4	4.1	北会津公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・北会津公民館
14			基本目標4	4.1	河東公民館地域学校協働本部事業	継続	教育委員会・河東公民館
15			基本目標4	4.1	子ども読書活動推進事業	継続	教育委員会・生涯学習総合センター
施策	2 青少	ケ年の個	建全育成	<b></b>			
1			基本目標4	4.7	青少年の心を育てる市民行動プラン事業費	継続	教育委員会・教育総務課
2			基本目標4	3.5	少年センター運営費	継続	教育委員会・教育総務課
3			基本目標4	4.7	青少年健全育成事業	継続	教育委員会・教育総務課
4				4.7	成人祝賀事業費	継続	教育委員会・教育総務課
5				4.7	少年の家維持管理経費	継続	教育委員会・教育総務課

※人口減少対策に資する事業として、「第3期 会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標に位置付けた取組を記載しています。 基本目標1 既存産業・資源を活用した魅力的なしごとづくり 基本目標2 地域の個性を活かした新たな人の流れの創出 基本目標3 生活の利便性を実感できる安全・安心なまちづくり 基本目標4 結婚・出産・子育て支援と教育環境の整備

施	施策1 子どもと子育て家庭を支える地域づくり							
	事業名	ファミリー・サポート・センター事業		法定/自主	法定			
	担当部・課	健康福祉部・こども家庭課		次年度方針	継続			
		<u> </u>	財務内容 単位(千円)	令和7年度(予算)	令和8年度 (見込み)			
	概要	安心して子育てができる環境づくりを行うため	事業費	11,715	11,715			
	(目的・内容)	国で定めるファミリー・サポート・センター	听要一般財源	4,048	4,048			
			概算人件費	557	557			
1	取組状況と 成果	・平成17年度:市民組織「ファミリー・サポート・あいづ」により事業開始。 ・平成22年度:病児・病後児預かりを開始。 ・平成28年度:ひとり親家庭等に対し利用料の半額助成を開始。 ・平成30年度:共働き世帯の要望を反映し、会員登録のための事業説明会や依頼会員 と提供会員のマッチングを土日祝日にも実施。 ・令和3年度:利用料の助成対象に「障がい児・多胎児のいる世帯」を追加。 子育てに関する不安や負担を軽減し、子育てしやすい環境づくりを整備してきた。						
	課題認識と 今後の方針 ・ 改善点	・おねがい会員(ニーズ)は増加傾向にあり、サ; められていることから、市政だよりやテレビ広報、 知を行うとともに、「おねがい会員」の経済的負 を鑑みながら、利用料金のあり方について検討し	、市公式SNS 担と「サポー	などを活用し	た幅広い周			
	事業名	地域子育て支援拠点事業		法定/自主	自主			
	担当部・課	健康福祉部・こども保育課		次年度方針	 継続			
			財務内容、	令和7年度	令和8年度			
	概要	子育て支援拠点の設置を推進することにより、	単位(千円) 事業費	(予算) 398,685	<mark>(見込み)</mark> 398,685			
	(目的・内容)	地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての 不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを促	所要一般財源	132, 895	132, 895			
		准オスァレた日的レオス	概算人件費	1,931	1,931			
2	取組状況と 成果	・地域子育て支援事業の実施施設に対し、補助金を交付してきた。 令和7年度 保育所9施設、幼保連携型認定こども園19施設、 学校法人1施設 地域型保育施設運営法人1施設(休日開所)						
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・拠点により利用状況にばらつきがあるため、利用者のニーズに対応した事業等のあり方について、検討していく必要がある ・今後も利用者のニーズや利用状況を踏まえ、子育て世帯の利用を促進するため、子 育て支援センターの周知を図りながら、事業を実施していく。						
	事業名	中央保育所子育て支援センター事業		法定/自主	自主			
	担当部・課	健康福祉部・こども保育課		次年度方針	継続			
	概要 (目的·内容)	る子育て支援拠点を設置し、子育ての不安感、 負担感、孤立感を緩和し、子どもの健やかな育 ちを支援する。	財務内容単位(千円)事業費所要一般財源概算人件費	令和7年度 (予算) 294 294 11,188	令和8年度 (見込み) 294 294 11,188			
3		・子育て家庭の交流の場の提供や、各種相談・支	援のほか、出	り 地域の子音でし	こ関する情			
3	取組状況と	報提供や講習等に加え、市内施設の子青で支援担	当者の情報を	換や研修会	を開催した			
	成果	・相談事業に関しては、電話相談、支援活動の場 支援担当者のほか、看護師・栄養士の対応を充実 <sup>・</sup>	での相談に対 させている。	対応できるよ・	う、子育て			
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・公立保育所の子育て支援センターとしての機能・父親や妊娠期の母親の利用を促進するため、それ場や講座を企画していく。また、ホームページ大を図るとともに、インターネットでの予約サー・広田保育所と連携し、公立の子育て支援センタ・。	れぞれの利用 や情報誌を活 ビスを実施し	月層が参加し <sup>、</sup> 5用し、新規和 していく。	利用者の拡			

	事業名	広田保育所子育て支援センター事業	法定/自主	自主					
	担当部・課	健康福祉部・こども保育課	次年度方針	終了					
	概要 (目的・内容)	地域の子育て支援の拠点として、子育て中の 親の不安感・孤立感を緩和するため、親子や子 ども同士での交流の場、情報の提供を促進し、 子育て支援機能の充実を図りながら子どもの健 やかな育ちを支援する。    財務内容 単位(千円) 事業費 所要一般財源	令和7年度 (予算) 223	<b>令和8年度</b> (見込み) 0 0					
4	取組状況と 成果	・平成28年度から子育て支援拠点事業を開始し、子育て親子の ている。相談事業として、栄養士も参加しての栄養・発育・6 。	・平成28年度から子育て支援拠点事業を開始し、子育て親子の交流の場の提供等をしている。相談事業として、栄養士も参加しての栄養・発育・健康相談も実施している。						
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・令和8年4月1日からの広田保育所の民営化に伴い、事業:	を終了する。						
	事業名	地域学校協働本部事業	法定/自主	自主					
	担当部・課	教育委員会・生涯学習総合センター	次年度方針	継続					
	概要 (目的・内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援 する地域学校協働活動を推進して、放課後子ど も教室を実施する。地域の方々との触れ合いや 体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健や かに育まれる環境づくりに取り組む。 概算人件費	令和7年度 (予算) 4,155 0 2,780	<b>令和8年度</b> (見込み) 4,155 0 2,780					
5	取組状況と 成果	・地域学校協働活動・・・「三中、四中学校区」R2~、「一中、二中学校区」R3~ ・放課後子ども教室・・・「あいづっ子1455」生涯学習総合センター H19~ 「城西っ子1455」城西小 H30~、「行仁っ子1455」行仁小 R3~ ・知識や経験の豊富なボランティアやコーディネーターなど、地域人材の活用が図られており、学校・家庭・地域を結ぶ学びの好循環が生まれている。							
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・より多くの地域住民等の参画と事業継続に向けた取組が必要である。 ・地域の中で子どもを育む取組として活動の様子を広報し、主体的に参画いただける 人材の確保に努めていく。 ・コーディネーターと公民館職員、地域連携担当教職員で情報共有を行い、学校ニー ズと地域の思い等を反映しやすい体制づくりを行う。							
	事業名	中央公民館神指分館地域学校協働本部事業	法定/自主	自主					
	担当部・課	教育委員会・生涯学習総合センター	次年度方針	継続					
	概要 (目的・内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援 する地域学校協働活動を推進して、放課後子ど も教室を実施する。地域の方々との触れ合いや 体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健や かに育まれる環境づくりに取り組む。 概算人件費	令和7年度 (予算) 671 0 1,113	令和8年度 (見込み) 671 0 1,113					
6	取組状況と 成果	・地域学校協働活動…「神指小学校区」R3〜 「ちょこボ境整備や授業の学習支援等を実施。令和7年度に「六中学校 設立し、同学区内の北公民館と共に取り組んでいる。 ・放課後子ども教室…「こうざしっ子」H19〜 R元〜神指 子どもたちに地域の方々と触れ合う機会を提供できており、 域を結ぶ好循環が生まれつつある。	区地域学校協作	動本部」を					
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・農村地帯でありながら、住民構成が一様でないため、地域に形で事業を進めていく必要がある。 ・地域の中で、子どもを育む取組として、地域学校協働本部 周知し、主体的に参画して頂ける人材の確保に努めていくと。 と公民館職員、地域連携担当教員で情報共有を行い、学校二、 業に反映しやすい体制づくりを行う。	<u>事業の</u> 活動の	様子を広く イネーター					

	事業名	北公民館地域学校協働本部事業	法定/自主	自主					
	担当部・課	教育委員会・北公民館	次年度方針	継続					
	概要 (目的・内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援 する地域学校協働活動を推進して、放課後子ど も教室を実施する。地域の方々との触れ合いや 体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健や かに育まれる環境づくりに取り組む。 概算人件	) (予算) 1,159 原 0	(見込み) 1,159 0					
7	取組状況と 成果	・地域学校協働活動・・・「第六中学校区」R3〜 永和小と第六中にコーディネーターを配置し、学習支援や環境整備を実施。 ・放課後子ども教室・・・「永和いなほキッズ」永和小 H19〜 地域住民や公民館利用団体の協力により体験活動等を実施。 ・R7年度に「第六中学校区地域学校協働本部」を設立し、地域と学校が相互に連携協働し地域の子どもたちを育成することにより地域社会の活性化が図られている。							
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・より多くの地域住民等の参画と、事業継続に向けた体制作りが必要である。 ・地域の中で子どもを育む取組として活動の様子を広く広報し、主体的に参画頂ける 人材の確保に努めていく。 ・コーディネーターと公民館職員、地域連携担当教職員で、事業目標や年間予定等の 青報共有を行い、学校ニーズと地域の思い等を事業に反映しやすい体制づくりを行う							
	事業名	南公民館地域学校協働本部事業	法定/自主	自主					
	担当部・課	教育委員会・南公民館	次年度方針	継続					
	概要 (目的·内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健やかに育まれる環境づくりに取り組む。    財務内容単位(千円事業費)   事業費   所要一般財	) (予算) 1,177 原 0	0					
8	取組状況と 成果	・地域学校協働活動・・・「第五中学校区」R3~ 門田小、城南小及び第五中にコーディネーターを配置し、学習支援や環境整備を実施。 ・放課後子ども教室・・・「南チャレンジキッズ」H19~ 地域住民や公民館利用団体の協力により体験活動等を実施。 ・主体的に学校を支援しようとボランティア活動に参加する方が増えており、学校、家庭、地域を結ぶ学びの好循環が生まれている。							
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・より多くの地域住民等の参画と、事業継続に向けた取組が必要である。 ・地域の中で子どもを育む取組として活動の様子を広く広報し、主体的に参画頂ける 人材の確保に努めていく。 ・コーディネーターと公民館職員、地域連携担当教職員で、事業目標や年間予定等の 情報共有を行い、学校ニーズと地域の思い等を反映しやすい体制づくりを行う。							
	事業名	大戸公民館地域学校協働本部事業	法定/自主	自主					
	担当部・課	教育委員会・大戸公民館	次年度方針	継続					
	概要 (目的・内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健やかに育まれる環境づくりに取り組む。    財務内容単位(千円事業費)   事業費   所要一般財	) (予算) 680 原 0	0					
9	取組状況と 成果	・地域学校協働活動「大戸地域」H30〜 大戸小・中学配置し、学習支援や環境整備を実施。 ・放課後子ども教室「おおとっ子1455」大戸小 H30〜 がら、学習支援やスポーツ、文化活動を実施。 ・子どもたちの健やかに育まれる環境づくりに寄与するとと では、異学年交流を通し、仲間づくりと郷土意識を育んでい	・ 地域住民の	協力を得な					
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・年々、活動に参加する地域ボランティアが増えているが、コーディネーターの負担が増大しており負担軽減を図る必要・活動の様子を公民館報「大戸岳」や市ホームページ、大戸ンネル」等で広く周知し、地域の理解をより一層深める。・大戸地域学校協働本部構成団体等の地域団体と連携・協力や育成を行い、次年度からコーディネーターを複数配置する	がある。 専用アプリ「! 」し、活動の担	おおとチャ					

	事業名	一箕公民館地域学校協働本部事業		法定/自主	自主				
	担当部・課	教育委員会・一箕公民館		次年度方針	 継続				
	概要 (目的・内容)	する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや 体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健や など含まれる環境づくりと取り組む	財務内容単位(千円)事業費所要一般財源概算人件費	<del>令和7年度 (予算)</del> 1,265 0 1,623	令和8年度 (見込み) 1,265 0 1,623				
10	取組状況と 成果	・令和元年度に松長小学校において放課後子ども教室「まつながっ子1455」を開講、レクリエーション等を実施し、子どもの放課後の安心安全な居場所づくりを行っている。 ・令和2年度に「一箕地区地域学校協働本部」を立ち上げ、学校の支援ニーズを踏まえ町探検引率や校内マラソン記録会見守り等の地域学校協働活動を行っている。							
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・本事業の趣旨を学校に十分に理解してもらいなか とともに、地域学校協働活動推進員やボランティアがある。 ・地域学校協働活動推進員の育成や、ボランティアの確保を行い、今後も「学校を核とした地域づくり	ア等に多様な アの募集なと	は住民の参画で ご、主体的に関	を促す必要				
	事業名	東公民館地域学校協働本部事業		法定/自主	自主				
	担当部・課	教育委員会・東公民館		次年度方針	継続				
	概要 (目的·内容)	する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや 体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健や など含まれる環境でくれて取り組む	財務内容単位(千円)事業費所要一般財源概算人件費	令和7年度 (予算) 1,193 0 464	<b>令和8年度</b> (見込み) 1,193 0 464				
11	取組状況と 成果	・地域学校協働活動・・・R3〜 第二中学校区で活動を開始し、地域と学校の連携に取組み、地域ボランティアの授業支援などの効果が出ている。 ・放課後子ども教室・・・H24〜 地域ボランティアの参画を受けながら子どもの居場所作りに取組み、多くの児童が参加している。 ・放課後子ども教室では、学年の枠を超えた交流と地域の方々と触れ合う機会を提供できている。							
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・地域ボランティアの人材確保が課題となることを認識している。 ・地域の中で子どもを育む活動の様子を広報して人材の確保に努めていく。							
	事業名	湊公民館地域学校協働本部事業		法定/自主	自主				
	担当部・課	教育委員会・湊公民館		次年度方針	継続				
	概要 (目的・内容)	する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや 体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健や など含まれる環境でくれて取り組む	財務内容単位(千円)事業費所要一般財源概算人件費	令和7年度 (予算) 707 0 1,391	<b>令和8年度</b> (見込み) 707 0 1,391				
12	取組状況と 成果	・地域学校協働活動・・・「湊地域」H28〜 湊点 実施している。 ・放課後子ども教室・・・「みなとっ子1455」H3 して開設し、ほとんどの対象児童が登録し活動し ・活動が高齢者にとっての「生きがい」につながよ は、地域の方々との触れ合いの機会を提供できてい	小中学校の環 30~ 湊学園 ている。 っているほか	環境整備や授業	業の支援を 生を対象と				
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・支援メンバーの固定化や高齢化も懸念されること様な機関・団体の参画を維持できるよう継続的な時・地域の中で子どもを育む取組として活動の様子を目指し、地域内人材の確保に努めていく。 ・スクールバス運行の都合上、活動時間が30分と降直ちに活動に移れるよう支援者及び湊学園側との情	取組が必要で を広く広報し 限られてい <i>る</i>	である。 シ、さらなる( らことから、キ	本制の充実 受業終了後				

	事業名	北会津公民館地域学校協働本部事業	法定/自主	自主				
	担当部・課	教育委員会・北会津公民館	次年度方針	継続				
	概要 (目的·内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健やかに育まれる環境づくりに取り組む。    財務内容単位(千円) 単位(千円) 事業費 所要一般財源    「「大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	令和7年度 (予算) 1,104 0 1,120	令和8年度 (見込み) 1,104 0 1,120				
13	取組状況と 成果	・地域学校協働活動・・・「北会津中学校区」R3〜 ・放課後子ども教室・・・「あらたてわんぱく遊び隊」荒舘州 「かわなみわんぱく遊び隊」川南州 ・地域ボランティアの協力を得ながら様々な体験活動を実施し 流と地域の方々と触れ合う機会を提供している。	N R 2 ~	を超えた交				
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・より多くの地域住民等の参画と事業継続に向けた取組が必要・地域の中で、公民館だより等により子どもを育む取組として主体的に参画いただける人材の確保に努めていく。・コーディネーターと公民館職員、地域連携担当教員で情報もと地域の思い等を反映しやすい体制づくりを行う。	て活動の様子を					
	事業名	河東公民館地域学校協働本部事業	法定/自主	自主				
	担当部・課	教育委員会・河東公民館	次年度方針	継続				
	概要 (目的・内容)	地域と連携し、子どもたちの教育活動を支援する地域学校協働活動を推進して、放課後子ども教室を実施する。地域の方々との触れ合いや体験学習を通して、子どもたちが心豊かに健やかに育まれる環境づくりに取り組む。    「財務内容単位(千円)事業費   事業費   所要一般財源   概算人件費	令和7年度 (予算)       968       0       2,316	<b>令和8年度</b> (見込み) 1,034 0 2,316				
14	取組状況と 成果	・地域学校協働活動R2〜地域ボランティアや各種団体等力的に実施されてきた。 ・放課後子ども教室H19〜子どもたちの安全、安心な活動なな体験・学習の機会を提供してきた。R7〜「こどもクラフ・地域住民による学校支援活動の広がりにより、様々な体験だて子どもたちの学びや成長を支えることができた。	が場所を確保し ブ」と合同開作	しながら様   崔を開始。				
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・学校運営協議会と連携を図りながら、河東学園のニーズや課題を共有して、地域学校協働活動の内容の充実を図る必要がある。 ・地域とともに歩む学校を目指す義務教育学校河東学園と連携しながら、年間を通して学校活動を支援できる体制を維持していく。						
	事業名	子ども読書活動推進事業	法定/自主	自主				
	担当部・課	教育委員会・生涯学習総合センター	次年度方針	継続				
	概要 (目的・内容)	「言語の力」を使って、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育み、優れた人材を育成するための読書活動事業を実施するとともに、ボランティアとの協働による乳幼児期からの読み聞かせを通して、豊かな心を育む。    財務内容単位(千円) 単位(千円) 事業費 所要一般財源    「「大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大	令和7年度 (予算) 3,266 3,266 36,452	令和8年度 (見込み) 3,266 3,266 36,452				
15	取組状況と 成果	平成22年度に「第一次市子ども読書活動推進計画」を策定し、現在の「第三次計画」まで家庭・学校・地域が連携して、小学生を対象とした「会津図書館を使った調べる学習コンクール」や中高生を対象とした「会津ビブリオバトル」の開催、健康福祉部と連携したブックスタート事業を開始した。児童書やティーンズ向け図書資料の充実を図るとともに、読み聞かせなどのイベント開催や、こども園や小学校の見学を受け入れなどの実施により、来館者数の増加につながった。						
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	地域や学校における読書活動への参画者を増やすために、開かせ講座による学習する機会と情報提供を行うとともに、 続に努めていく。だれもが読書ができるために、支援を必要と て、図書サービスの充実を図るとともに読書習慣が定着する。 子どもの読書活動を推進していく。引き続き、地域全体で取終 も読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進及で っていく。	事業活動の場の とする子どもで よう、家庭や学 且むため「第D	の確保と継   たちに対し   学校等での   四次市子ど				

施	施策2 青少年の健全育成							
	事業名	青少年の心を育てる市民行動プラン事業費		法定/自主	自主			
	担当部・課	教育委員会・教育総務課		次年度方針	継続			
		,財務			令和8年度			
	概要	"あいづっこ宣言"の周知・啓発を図るとと また、###四体である表示を表示を図るとと	/	(予算) 734	<mark>(見込み)</mark> 734			
	(目的・内容)	もに、推進母体である青少年育成市民会議の活動を支援していく。   「動を支援していく」		734	734			
		概算人	件費	5,523	5, 523			
1	取組状況と 成果	平成14年2月に"あいづっこ宣言"を策定し、家庭、学校、地域、企業及び青少年育成に関する団体と連携しながら宣言の普及に取り組んできた。宣言の推進母体である青少年育成市民会議では朝のあいさつ運動をはじめ、各地区の実情に応じた様々な活動を主体的に実施してきた。 平成23年度には10周年記念事業、令和3年度には20周年を記念した式典や動画作成等の記念事業により効果的な啓発事業を実施し、青少年の健全育成に寄与した。						
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	"あいづっこ宣言"の更なる周知・啓発を図るためにして地域の実情に即した事業を展開していくとともに、言の理解促進と実践化を図っていく。 また、民間企業との連携を図り、子どもだけでなく層の普及啓発を進めていく。	学校を	と通じた児童	・生徒の宣			
	事業名	少年センター運営費		法定/自主	自主			
	担当部・課	教育委員会・教育総務課		次年度方針	継続			
		少年センターは、少年の非行防止という目的 財務	内容、	令和7年度 (予算)	令和8年度 (見込み)			
	概要	を達成するため、非行防止等に関する総合的な 実践活動を推進するための拠点として、少年セ		3 <b>,</b> 048	3,030			
	(目的・内容)	ンター補導員による「愛の一声」等の街頭補導 や社会環境浄化活動等をとおして、少年の非行 所要一	般財源	3,048	3,030			
		防止や青少年の健全育成活動を進めている。 概算人	件費	3,816	3,816			
2	取組状況と 成果	少年センター補導員による補導活動として、「あたたかい愛の一声心のかけ橋」のスローガンを掲げ、青少年のみならず巡回する店舗等においても積極的な声かけをし、問題の早期発見・改善に努めた。公用車による「あいづっこ青色パトロール」では郊外型大型店や危険個所を効果的に巡回する補導を行った。市の情報配信メール「あいべあ」を活用した不審者情報等の提供により犯罪被害防止に努めるとともに、各種研修会の開催により、補導員の意識と資質の向上にも取り組んだ。						
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	令和6年の本市の少年補導の状況について、検挙・補導人数が令和5年に比べて増加しており、。検挙の罪種としては万引きが最も多く、犯罪の低年齢化も問題となっており、補導の不良行為としては、喫煙が最も多かったことから、販売店へ陳列方法の指導や年齢確認徹底の依頼を行い改善を図っていく。少年非行の要因は単独で作用するだけでなく、複雑に絡み合って犯罪の発生にもつながっている。このことから、現在の補導活動に加え、防犯の視点からも取組むなど、地域社会における防犯体制の強化に繋がるよう関係機関と連携を図っていく。						
	事業名	青少年健全育成事業		法定/自主	自主			
	担当部・課	教育委員会・教育総務課		次年度方針	継続			
	概要 (目的·内容)	心豊かで、創造性にあふれ、自分自身を大切にするとともに、社会規範を守り、他者の立場に立って考え、行動できる青少年を育成する。家庭、学校、地域および「子ども会育成会」や「青少年育成市民会議」等の関係団体等と協働、連携して青少年の健全育成を図る。	千円) 美費 般財源	令和7年度 (予算)5,8365,8365,523	<ul><li>令和8年度 (見込み)</li><li>5,862</li><li>5,862</li><li>5,523</li></ul>			
3	取組状況と 成果	「青少年育成市民会議」や「子ども会育成会」等の青ながら、少年の主張や指導児講習会等の事業を協働で実進している。 自主性や自立性を持った心豊かな子どもを育成するた議会との連携により、中高生のジュニアリーダーを育成	が が が が、 か、 で	原係団体の活性 青少年の健全 「子ども会育」	生化を図り 全育成を推			
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	青少年を取り巻く環境が一層複雑化・多様化する中、 少年関係団体などとの連携を強化し、地域全体で青少年 子ども会加入者の減少とともに休止する子ども会の増 不足も課題となっていることから、子ども会育成会連絡 魅力ある事業の実施と効果的な周知を行い、子ども会加 の活性化を図り、自主的な活動の支援を継続していく。	の健全 加、加 協議会	全育成を推進で で育成会等 では、 では、 でででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、	ける。 穿の担い手 )、さらに			

	事業名	成人祝賀事業費		法定/自主	自主			
	担当部・課	教育委員会・教育総務課		次年度方針	継続			
		令和4年4月には民法の一部改正により成年 年齢が18歳に引き下げられたが、本市において は引き続き20歳を対象に式典「はたちのつどい	財務内容単位(千円)	令和7年度 (予算)	令和8年度 (見込み)			
	概要 (目的・内容)	は引き続き20歳を対象に式典「はたちのつどい 」を実施する。18歳新成人については、お祝い	事業費	2,932	2,969			
	(Пь) (лд.)	や記念となる事業の実施を通して、成人となっ た自覚を促していく。	所要一般財源	,	2, 969 3, 167			
		だ自見を促している。 式典については、大人になったことの自覚を促	概算人件費	3,167	-,			
4	取組状況と 成果	を祝い励ますことを意図して開催してきた。20歳 の再会や家族との時間を共有することで、あらた ている。	という大きなめて郷土にて	が は節目で、地 いて考える	こりる育井   一元の友人と   契機となっ			
	以未	令和4年度からは18歳到達者を対象として、メットの設置により成人のお祝いと啓発に取り組ん	ッセージカー だ。	- ドの送付や	フォトスポ			
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	人生の大きな節目である20歳の若者が地元の良さをあらためて認識する機会とするとともに、参加者にとって、さらに意義深く心に残る式典となるよう検討していく。 18歳成人に対しては、お祝いと自覚を促す取組として、メッセージカードの送付を継続して実施していく。						
	事業名	少年の家維持管理費		法定/自主	自主			
	担当部・課	教育委員会・教育総務課	次年度方針	継続				
		少年の健全な心身の育成を図るための宿泊施	財務内容単位(千円)	令和7年度 (予算)	令和8年度 (見込み)			
	概要 (目的・内容)	設として設置。 施設の管理及び使用許可は市で行い、利用者	事業費	740	3,070			
	(HPJ TJH)	が自主的に利用している。	所要一般財源	740	3,070			
		<b>体験学羽浜動笠の担の担供により夕必か学羽奴</b>	概算人件費	236	236			
5	取組状況と 成果	体験学習活動等の場の提供により多彩な学習経験を通して青少年の健全育成を推進している。 青少年育成団体や子ども会等において、多様な体験活動を通した子どもたちの育成 や成長の場として利用されており、学校外において重要な青少年活動施設となってい る。						
		る。 学校教育課が主催する「適応指導教室」の実施場	所としても和	川用されてい	る。			
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	建設から50年以上が経過し老朽化が進んでおり、施設の状況に応じた適切な改修等が求められている。 今後も安全性等の観点で優先順位をつけながら必要な修繕等を加え、現在の施設 を維持管理していく。						